

故事「背水の陣」確認テスト（史記・韓信） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾 解答・解説

問1 みずをせにしてじんす

※「背」は「…を背にする」、「陳」は「陣」と同じで「陣を敷く」の意。

問2 これをしちにおとしいれてしかるのちいき

問3 (兵を) 死地に追い込んでこそ、その後にかえって生き残ることができ、滅亡の地に置いてこそ、その後にかえって生き延びることができる。

問4 「死地」「亡地」とは、逃げ場がなく、そこにいれば死ぬ・滅びるしかないような絶体絶命の場所（ここでは川を背にした退路のない陣のこと）。

問5 自軍は日頃から訓練されていない寄せ集めの兵であり、逃げ場のある安全な場所に置けばすぐに逃げ出してしまう。そこで、あえて退路のない死地に置くことで、一人一人が自分のために必死に戦わざるを得ない状況を作り、その死力を引き出して勝利するため。

問6 イ (いたわり手なづけ訓練すること)。「拊循」は兵士を日頃からいたわり、訓練して従わせること。

問7 日頃から訓練されていない、町の人々を急にかり集めて戦わせるような、にわか仕立ての寄せ集めの軍隊のたとえ。

問8 もし兵士たちに (逃げ場のある) 生きられる場所を与えたら、皆逃げ出してしまうだろう。

問9 (1) 反語 (2) どうして (その兵士たちを) うまく使いこなすことなどできようか、いや、できはしない。

問10 初めは韓信の布陣をあやしみ・笑っていたが、その深い戦術の意図を聞いて心から感服し、自分たちには到底及ばない優れた知略だと認める気持ち。

問11 予・与・給 (いずれも「あたえる」の意味で用いられる。本文では「予」を用いている)。

問12 一步も引けない決死の覚悟で、全力を尽くして事に当たること。退路を断ち、もう後がない状況に身を置いて戦うこと。

問13 (趙軍は)「望み見て大いに笑ふ」(=韓信の陣を遠くから見て大いに笑った)。

問14 兵法では、川や沼などを背にして退路のない場所に陣を敷くのは愚かな布陣とされ、ふつうは避けるべきものだったから。韓信がその常識に反する布陣をしたので、勝ち目がないと見て趙軍はあざ笑った。

問15 (1) へいほうにいはずや (2) 反語 (「…ず…や」で「…ではないか」と強く念を押し形。ここでは「兵法に書いてあるではないか」と確認・強調する反語的用法)。

問16 兵を死地に置いて死力を尽くさせる (十四字)。「別解」絶体絶命の地でこそ人は全力を出す。

問17 「市人を駆りて之を戦はしむ (市人を駆りて戦ふ)」(=町の人々をかり集めて戦わせるような、寄せ集めの軍)。

問18 兵士たちは皆（戦わずに）逃げ出してしまうだろう、と考えていた。

問19 諸将皆服して曰はく、「善し。臣の及ぶ所に非ざるなり」と。（＝諸将は皆感服して「お見事です。我々の及ぶところではありません」と言った。）

問20 書名…『史記』 著者…司馬遷（しばせん）。

問21 ウ（破釜沈舟…釜を破り船を沈めて退路を断つ意で、「背水の陣」と同じく決死の覚悟を表す）。〔参考〕イ「四面楚歌」は周囲が敵ばかりで孤立すること、エ「臥薪嘗胆」は復讐のために苦勞に耐えること、ア「漁夫の利」は両者が争う間に第三者が利益を得ること。

問22 （例）今度の試験は留年がかかっており、まさに背水の陣で勉強に取り組んだ。〔例〕資金も尽き、背水の陣で新事業に挑む。